



発行
一宮市児童育成連絡協議会
事務局
一宮市栄3丁目1番2号
尾張一宮駅前ビル4階
(一宮市社会福祉協議会内)
TEL 0586-85-7024
FAX 0586-85-7025

令和6年7月16日

ウェブサイト「一の宮っ子」<https://www.intell-inc.com/ichinomiya.jido-ren/>

子ども会は、長年にわたり地域の中で育まれ、児童の健全育成に大きな役割を果たしてきました。その中で大切にされてきたことが、「子どものために何か楽しいこと、喜ぶことをしよ

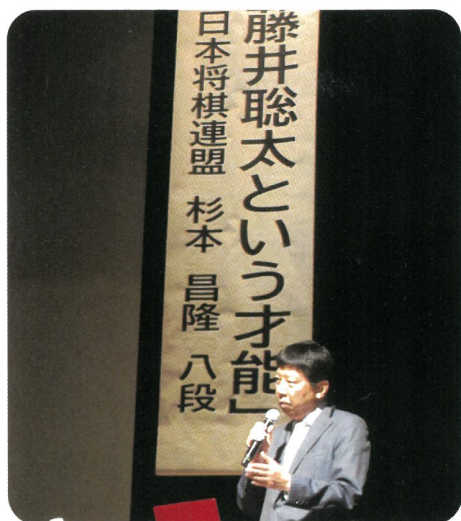
指導者の皆さん、子ども会の推進役を引き受けていただきありがとうございます。指導者としてどのように活動を進めていけばよいのか、色々考えてみえると思います。それにはまず何よりも「子ども達が楽しく安心して活動できるようにするためにはどうするか」を考え、役員で話し合い協力して進められるようにお願いします。



「指導者の皆さんへ」
子ども会活動の継続と発展

一宮市児童育成連絡協議会

会長 内田 清



▲ 杉本八段による講演

う」と言う大人達の思いです。そして「子どもにできることは子どもにやらせよう」と言う考え方です。この精神が脈々と受け継がれ現在に至ります。その上で子どもの健全な成長を願い支える関係者によって、「家庭で躾け、学校で学び、地域で伸ばす」と言う協力体制が築かれてきました。

た繋がりを強くし、未来に生きる知恵と心を豊かにしてきました。ただ、少子化社会の進展や時代の変化による地域との繋がりの希薄化、コロナ禍の活動制限などにより子ども会は厳しい状況になっています。この状況に対して子ども会は「できる事を見つけ、やれる時にやる」と言う方針で、新しい生活様式に切り替え、子ども達の命を守り、安全・安心な環境の中で笑顔で楽しく活動に参加できるように努力と工夫を重ねてきました。

指導者の皆さん、時代の変化に対応する新たな魅力ある活動を求め、子ども達に様々な気づきの機会やより良い体験の機会を与え、かつ安全で安心して活動ができ、参加した誰もが「やって良かった!」と言える子ども会活動、そして「子ども会が楽しい!」と言える子ども会にしていきたいと思います。

子どもによる子どものための子ども会活動をめざして!

宮市子ども会指導者研修



▲一宮市長よりエールを頂きました

令和6年度 一宮市子ども会

指導者研修会

浅井町連区 西浅井子ども会

指導者 石黒 結美子

この度、一宮市子ども会指導者研修会に参加させていただきました。

ご来賓の一宮市長から、昭和時代に建てられ、古くなった一宮市内の小中学校の校舎を新しくしていく計画があるとお話がありました。又、市民地域の意見を聞き、今の時代に合った学校を作っていくことの事でした。残念ながら私の子ども達も新しい校舎で学ぶのは難しいと思います。新しい学校作りにも協力できたらいいなと思いました。

前年度の指導者の方の体験発表では、コロナ感染症が5類感染症になり、以前のような催しができるようになってきたとお話がありました。現在、共働きの家庭が多く時間を作るのも大変ですが、SNSやインターネットなどを上手に利用し子ども会活動に役立てているという事でした。

ジュニアリーダーからは楽しい手遊びを教えてくださいました。子ども会指導者として行事に参加させていただける事に感謝

し、子ども達が笑顔あふれる行事を開催していけたらと思います。



▲遊びの達人ジュニアリーダー

千秋町連区 穂塚子ども会

指導者 山田 裕美

この度、一宮市子ども会指導者研修会に参加して参りました。

ご来賓の方から少子化についてのお話を伺いました。私どもの子ども会も少人数での活動をしており、少子化に対応した運営をしていかなければいけないと強く感じました。

指導者の方の体験発表の中では、スケジュール調整に苦慮する事があり、SNSをうまく活用することで解決できたとの事でした。お話の中で、無理なくできる範囲で出来る事をするという言葉がとても心に残りました。

ジュニアリーダーの方からは楽しいリズムゲームを教えてくださいました。今後、レクリエーションで活用させていただきますと思いました。

将棋の杉本八段のお話では、大人になると上からの物言いになつてしまいがちですが、子ども目線で考えることが大切だと気付かされました。

最後になりますが、このような貴重な機会を頂きましてありがとうございます。

体験発表

貴船連区 松山・古見子ども会

指導者 長森 真由美

貴船連区にある松山・古見子ども会は、子ども会員数40名と役員10名、育成会役員1名の合計51名で構成されています。4年前は会員数が100名を超える大きな団体でしたが、現在の会員数は減少傾向にあります。今年度の実際の活動や行事の企画、打ち合わせは主に女性役員が中心となつて行いました。共働き世帯が多く、集合しての打ち合わせや準備が大変困難でした。各役員の家での生活や勤務時間などもバラバラで、タイミングを調整するだけでも大変時間を取られる状態でした。そのよう



ために、SNS、インターネット、オンラインツールを駆使して、スケジュール調整、活動に関する情報収集

集、打ち合わせ前に情報共有するといった取り組みを行い、少しでも効率よく実施できるように努めました。

令和5年度子ども会活動計画は、歴代の役員から引き継がれた資料を元に構成しました。ただ、コロナが5類感染症に移行することを受けて、子ども会行事を再開する方向性を決めたものの、感染拡大の不安も残り、感染対策をどのように行うべきか、活動を再開しても参加者はどれだけのいるのか、いろんな不安が残りました。そのため、役員会議で話し合いを重ね活動内容を直し、役員がやるべきこと、外部委託できることは委託するなど、役員が無理をしないように心掛け、安全を図りつつ、子ども達と行事を楽しむマインドで取り組みました。

活動実績としては、4月桃花祭、7月ラジオ体操、夏休み期間に夏のお楽しみ会として工作教室、11月秋のお楽しみ会としてボウリング大会、2月下旬に

歓送迎会としてピエロのトントさんをお招きし、バルーンアートの体験と楽しいショーを企画し、開催しました。また4年ぶりに貴船連区大運動会が再開され、町内会と共同行事として10月に参加しました。今年度企画した行事には、準備に苦労することもありましたが、たくさんの子ども達が集まり、子ども達の笑顔が多く見られ、学校でも家庭でもない場所で、子どもも大人も楽しい時間を過ごすことができました。

育成会活動では、研修会への参加、KYTトレーニング、連区育成会会議では町内外の子ども会役員がどのような活動を行っているのか、情報交換を行う機会があった他、子ども会活動を行う際の安全面について学ぶ機会や安全に活動を行える仕組みがあることを知りました。

今回の活動を経験して強く感じたことは、共働き世帯が多いこと、コロナ禍を経験し、生活スタイルの多様化、地域活動への意識の違いなどがあります。そして限られた時間と制約の中で活動するには、インターネットやデジタルを活用した情報共有や進行準備は必須であると感じました。そして、子ども会活動を通して、自分なりに考え、役員メンバーと共有し、子ども

会役員として一定のチャレンジはできたと思いますが、明確な答えは出ていません。引き続き、時代の生活様式や意識に合わせた活動内容や、やり方の見直しは課題であると感じました。

最後になりますが、町内会や育成会だけではなく、多くの方々に支えられて子ども会活動を終えられたことを感謝いたします。

向山連区 向山二丁目子ども会

指導者 成瀬 美香

「大変な一年になるな...。」私が指導者となって、まず思ったことです。娘と同学年のお母さん達が既に子ども会役員経験者だったため、指導者を引き受けましたが、フルタイムでの仕事と家事育児で手一杯の中、私に指導者が務まるのか、とても不安でした。しかし、終わってみれば、仲間に恵まれ、多くの方々の協力を得ながら、充実した一年を過ごせたと思います。

指導者として子ども会活動を行う上で私が心がけたことは、「無理なくできる範囲でできることをする」ということです。私も含め、仕事をしている役員もいたので、ボウリングや映画鑑賞をしたり、講師を招いて工

作をしたりと、準備や当日の進行などの負担がかからないようにしました。発表できるような特別な活動はしていませんが、他の役員さん達と一緒に、子ども達の喜ぶ顔を想像しながら計画・準備をしたことで、どの行事も子ども達の笑顔が溢れるものとなりました。子ども達が楽しむ姿を間近で見ることができたことは、何ものにも代え難い良い経験となりました。

また、昨年度はコロナ禍で中止を余儀なくされていた、連区の行事である児童福祉大会やスポーツ大会も実施することができませんでした。久しぶりの開催で経験者が少ないこと、子ども会自体の減少で運営を担う人材が少ないことが課題となりました。例年通りの方法での開催は難しく、指導者の方々、育成会の方々と内容や実施方法を何度も検討しました。とても大変でしたが、やり遂げた時の達成感、指導者として子ども会に関わってきたからこそ得られたものです。



た、同じ目的に向かって指導者の方々とたくさん話ができ、仲が深まり

ました。これまで他の保護者と関わる機会が少なかった私にとつては、それはとても嬉しいことでした。

一年間指導者として子ども会に携わり、たくさんの子どもの笑顔に出会えたこと、たくさんの方々と交流できたことは、貴重な経験となりました。一方で、やはり指導者としての負担は大きく大変でしたし、反省点

児童福祉週間行事

貴船連区 スペクトル二宮貴船子ども会

六年 原口 夏寧

5月26日貴船公民館でクレヨンしんちゃんのオトナ帝国を見て私は大人がいなくて電気やガスが止まってしまうことがわかりました。ほかに食料や生活がなくなってしまうこともわかりました。しんちゃんたちが協力して、バスをそうさをしていて協力って大切なことで、チームワークがいいと思いました。「未来になると心がうすつぺらくなる。」と言っていたシーンがある。私にはそんなことはないと思います。しんちゃんがタワ

や課題もたくさんあります。今年度指導者となった皆さんも、一生懸命になればなるほど壁にぶつかる時があるかもしれません。しかし、乗り越えた先に得られるものは大きいと思います。子どもも大人も笑顔になれる自分達らしい子ども会を作っていけたら素敵だなと思います。皆さんにとって、充実した一年となることを願っています。



▲みんなで見る映画は楽しいね！



▲桃花祭
馬とっしよに歩いたよ

をのぼる時に昔にいた人たちがそのがんばるのを見ている大人たちの気持ちを変えているのが不思議だと思いました。ほかになぜかしんちゃんのお父さんとかつでもとにもどったのはいろんな思い出があるからだと思いました。それでしんちゃんの家族がもとどおりになったと思いました。

来年のとう花祭は、晴れるといいなと思いました。

馬を引いたり、音を鳴らしたり、「ワッショイ！ワッショイ！」と言いながらアーケードの下を歩きました。

馬を引いている時、馬が何回も鳴いたのでびっくりしました。馬ってあんなふうに鳴くんだなと思いました。

学校の友だちもいて、みんなでとう花祭ができて楽しかったです。

馬やかざりがぬれるから中止だと思つたけど、商店がいにアーケードがあるおかげでかざりをつけた馬とっしよに歩くことができました。

大志連区 D☆Friends子ども会

四年 栗本 結衣

4月3日、D☆フレンズ子ども会はどう花祭にさんかしました。

わたしは、馬のかざりつけようのお花作りをてつだつたので、自分が作つたお花や、みんなが書いた顔絵が、どんなふうにかざられているか、楽しかったです。とう花祭の日は、雨で馬やかざりがぬれるから中止だと思つたけど、商店がいにアーケードがあるおかげでかざりをつけた馬とっしよに歩くことができました。

富士連区 双葉子ども会

五年 下郷 雄大



▲マジックショー
驚きの連続！

5月11日、富士小学校で福祉大会があり、今年はマジシャン中村龍平さんのマジックショーでした。どのマジックもすごく不思議なことばかりで、ほくは終始こうふんしていました。その中でも一番印象的だったのが、空中に浮かせるマジックです。テーブルや人をふわふわと浮かせている様子は、魔法使いかと思わせるほどでした。次にきょう味深かったのが、ルービックキューブを使ったマジックです。人が混ぜたキューブの六面を記おくし、目かくして同じようにそろえたり、三つのキューブをジャグリングしながら六面をそろえていました。最近六面をそろえられるようになったのですが、あの速さと片手で回すテクニクのすごさにおどろくばかり。あつという間に楽しい時間が過ぎていました。

おみやげにもらった一から九の数字マジックは、家族のために自宅でも楽しむことができました。すてきなショーをありがとうございました。

丹陽町連区 伝法寺本郷子ども会

六年 相馬 悠希

5月12日、アイプラザ一宮で行われた児童福祉大会「スペシャルコンサートin丹陽」に参加しました。

第一部は、1300年の歴史を誇る日本最古のオーケストラ「あずら雅楽」の演奏でした。僕は雅楽を知らなかったのですが、楽器も音も衣装もすごく新鮮でした。これが1300年も昔からあつたなんてすごいと思いました。

第二部は、丹陽中学校吹奏楽部による演奏でした。音を出すだけでも難しい楽器もあるそうですが、しっかり音を出して堂々と人前で演奏している姿には驚きました。

第三部は、丹陽町外崎にある音楽教室「ベルカント」のみなさんが歌を披露してくれました。僕たちは手拍子で参加したり、最後には『翼をください』を一緒に歌いました。

どれも迫力がすごくて、大ホールにも心にも響きました。丹陽の人たちが奏でる演奏に、丹陽の子どもたちが参加することで、特別な時間を過ごすことができました。



▲日本最古のオーケストラ
1300年の歴史をもつ雅楽

KYT講習会

神山連区

安全部長 林 純子



▲KYT講習会

訓練は、自動車、バイク、工場の作業中、登下校や学校生活など、さまざまな場面で、事故発生を未然に防ぐことを目的に、自動車学校や企業、教育現場などで行われている訓練です。

サッカーや将棋など、攻守のある競技で、攻撃を成功あるいは阻止するために、数手先を読む予測することが有利なのと同じだと思います。

子ども会の活動を安全に運営するために、先日、一宮市児童育成連絡協議会のKYT講習会に参加してきました。

各連区の安全部長さん達と共に、ある場面においての危険を見つけ出し話し合い、皆で安全を守るための目標を発表し合うことができました。段々と意見の交換が活発になり、賑やかで楽しくなり、KYTはコミュニケーションの一環にもなると感じました。

自分の安全は自分で守ること、考えて行動すること、同じ目的を共有することは、どれも子ども会だけでなく必要な能力だと思います。

安全を第一に、子ども達に楽しかったと言ってもらえる一年にしたいと思いました。

丹陽町連区

安全部長 田島 えり子

一宮市の連区安全部長が集まるKYT講習会に参加しました。

参加するまで、KYTがどんな意味なのか曖昧でしたがKYTとはK（危険）Y（予知）T（トレーニング）の事でした。実際に参加する事によって普段の生活でも危険がたくさんある事、大人の目線と子ども目線とでも違いがある事を学ぶ事ができました。

講習会では「危険予知トレーニングシート」をもとに、どんな危険が隠れているかを数人で意見を出し合い、どうしたら回避できるかを考えました。最後に行動目標をスローガン化し、指差唱和をしました。他の人の意見を聞く事によって自分では気付かなかった危険もありました。



子ども会活動は、一年生から六年生と年齢も幅広く、危険予知能力

力も違うのでまずは私達大人がしっかり身につけ指導する事、そして子どもは自分自身の安全は自分で確保する能力を身に付ける事が大切だと改めて考える事のできた講習会でした。

連区でKYTを共有し、楽しく子ども会活動をしていきたいです。

表彰

去る4月27日、子ども会指導者研修会の席上で、多年にわたり子ども会活動の推進にご尽力された、左記のみなさんが一宮市長より感謝状を贈呈されました。

市長感謝状10年

葉栗連区児童育成協議会	戸松 美晴 様
葉栗連区児童育成協議会	清水 信次 様
葉栗連区児童育成協議会	坂田 卓弥 様
奥町連区児童育成協議会	井藤 一寿 様

編集後記

みなさんからのたくさんのお手紙をお待ちしています。一年間よろしく願います。広報委員

河辺 三代・赤野 ルミ子
松野 真紀・栗本 博子